



「ゴールまであと少し。頑張れー」

沿道の声援を受けて力走する子どもたち 恒例の「子どもマラソン大会」

「第42回子どもマラソン大会」(内子・城廻地区愛護班連絡会、内子小学校共催)が2月18日、内子小学校周辺で開かれました。低学年は1.4^{キロ}、高学年は2.0^{キロ}のコースで健脚を競います。この日に向けて練習を重ねてきた子どもたちの思いはさまざま。去年よりも上の順位やいいタイムを目指して懸命に走る姿に、沿道の保護者や地域の人たちからは大きな声援が飛んでいました。



さまざまな曲を奏でる音楽水車と岡さん(右)

石畳の水車が音楽を奏でる 大学生が企画した不思議な音楽祭

「音楽水車プロジェクト in 内子・石畳」(愛媛大学・松山大学連携事業^{センス}主催)が2月20日、石畳清流園で行われました。サックス奏者の岡淳さんが結成した「音楽水車プロジェクト」は、水車の力を利用して装置を動かし、木琴や太鼓などの楽器を演奏します。観客は、水車が奏でる素朴な音楽と岡さんのサックスの美しい音色の協演を楽しんでいました。

冬の自然の美しさを肌で感じる 「冬の小田深山物語」

「冬の小田深山物語」(内子町主催)が2月6日、小田深山で開かれました。雪深い山道を歩く参加者の足元は、スノーシュー。「ギュッ、ギュッ」と音を立てながら歩いて、ゴールのブナの巨木を目指しました。途中、大きなイノシシの足跡を見つけたり、「雪アート」を作ったりして、雪の森を満喫。参加者は「寒かったけれど、小田深山の冬の景色は格別」と感動した様子で話していました。



雪の森を楽しみながらの散策

愛媛マラソンで内子座100周年をPR 101人がそろいのTシャツで伊予路を駆け抜ける

「内子座創建100周年」と「えひめいよしの南予博2016」を盛り上げようと2月7日、PR用のTシャツを着た101人が「第54回愛媛マラソン」に出走しました。Tシャツには両イベントのロゴマークと、内子座が創建された1916年～2016年までの各年の番号が表示されています。2時間間で走った人や、初めて完走できた人、それぞれのランナーが爽やかな笑顔でイベントをPRしました。



そろいのTシャツで心をひとつにした参加者の皆さん

おいしいシイタケの料理教室 「しいたけを美味しく食べよう」

小田中学校1年生を対象とした料理教室「しいたけを美味しく食べよう」(内子町女性林業研究グループ他主催)が2月9日、小田中学校で開かれました。生徒14人は、シイタケのおいしさと栄養の秘密などを学んだ後、シイタケを使った料理を作りました。普段はあまり食べないという生徒も「いろいろな料理法があって、おいしく食べられた」と話していました。



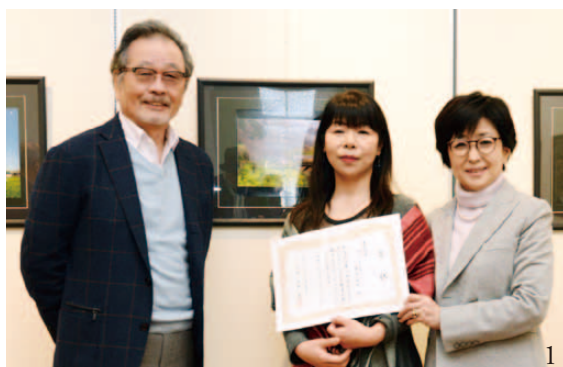
「シイタケ入り豆腐ハンバーグ」や「じゃこきのこ」が完成

エコロジータウンの子どもたちが 環境問題について意見交換

「平成27年度内子町環境子ども会議」(内子町・内子町教育委員会主催)は2月10日、内子町共生館で開かれ、町内の小・中学校から約300人が参加しました。環境活動の発表をした大瀬中1年の生徒は「ごみ袋の値段を上げれば、ごみの排出量は減るのか」と提起し、会場の児童・生徒と意見交換をしました。その後、廃食油石けん作りなどの体験学習を通して、環境問題について考えました。



廃食油でキャンドルを作る体験学習



1_最優秀賞を受賞した長谷さん(中央)とふるさと応援大使の竹下景子さんと関口さん 2_受賞者の皆さん(前列)と実行委員会のメンバーで記念撮影

内子町の魅力を写真で発信 「第1回内子フォトコンテスト」

内子町合併10周年記念事業「第1回内子フォトコンテスト」(同実行委員会主催、大西啓介会長)の表彰式が2月21日、内子町ビジターセンターで行われました。

同コンテストでは内子町の自然・風景・文化をテーマとした写真を募集。町内外から152作品の応募がありました。写真家の関口照生さんを審査委員長に迎え、7人の審査員で審査を行い、最優秀賞をはじめとした各賞を決定しました。表彰式では入選者に賞状と副賞が手渡され、関口さんが作品の講評を行いました。関口さんは「回を重ねたら、さらに素晴らしい写真が集まる。参加者は今後も内子町をターゲットにしてほしい」と話しました。

最優秀賞には長谷由美さん=松山=の『里山の春』が選ばれました。長谷さんは「ドライブをしていたときに、霧が立っている風景がふと目に入った。大好きな写真なので、受賞してうれしい」と笑顔でした。

入選作品と講評は14、15ページに掲載しています。作品は3月末まで内子町ビジターセンターに展示します。